2019 第48回サマーエンデュランス鈴鹿10時間耐久レース［JAF公認No.2019-0017］

開催日：2019年8月23～25日　開催場所：鈴鹿サーキット国際レーシングコース　格式：国際／国内
主催：SMSC［クラブ登録No.公認24001］、株式会社モビリティランド［団体登録No.公認24001］

フォト／吉見幸夫　レポート／皆越和也

36台のマシンが集った真夏の祭典「鈴鹿10時間耐久レース」。10時間もの長丁場を制したのは#25のアウディスポーツ・チームWRT。

WRTのアウディR8が10時間を走り抜き総合優勝！

8月23～25日、鈴鹿サーキットにおいて開催された「鈴鹿10時間耐久レース」(SUZUKA 10H)は、36台の車両が参加して行われ、アウディスポーツ・チームWRTの#25アウディ R8（ドリス・ヴァンスール／ケルビン・ファン・デル・リンデ／フレデリック・フェルヴィッヒ組）が序盤にトップを奪い、逃げ切って優勝。日本のチーム最高位は10位でゴールしたメルセデスAMGチーム・グッドスマイルの#00メルセデスAMG（谷口信輝／片岡龍也／小林可夢偉組）だった。

48回目の開催となった鈴鹿の真夏の耐久レース。かつては鈴鹿1000kmとして人気を集めたレースイベントが昨年にフルモデルチェンジをし、FIA GT3車両を中心(FIA GT3が35台、SUPER GTのマザーシャシーが1台の計36台)とした10時間レースとなった。

ドライバー3名のベストラップタイム合算で行われた公式予選の後、上位20台によりスターティンググリッドを決定するポールシュートアウトが行われ、ここでポールポジションを奪ったのはBMWチームシュニッツァーの#42 BMW M6（アウグスト・ファーフス／マーティン・トムチェク／ニコラス・イエロリー組）で、2番手は#25アウディ R8。3番手以下はワーケンホルスト・モータースポーツの#34 BMW M6（クリスチャン・クログネス／ニッキー・キャッツバーグ／ミッケル・ジェンセン組）、CARGUYレーシングの#777 フェラーリ488（ジェイムズ・カラド／ケイ・コッツォリーノ／ミギュエル・モリーナ組）、ベントレー・チームM-スポーツの#107ベントレー・コンチネンタル(ジョーダン・ペッパー／スティーブン・ケイン／ジュール・グーノン組)、#00メルセデスAMG、アウディスポーツチーム・アブソリュートレーシングの#125アウディ R8（マルクス・ヴィンケルホック／クリストファー・ミース／クリストファー・ハーゼ組）の順。昨年大会の覇者メルセデスAMGチーム・グループMレーシングの#999メルセデスAMG（マロ・エンゲル／ラファエル・マ

1.アウディスポーツ・チームWRTのD.ヴァンスール／K.ファン・デル・リンデ／F.フェルヴィッヒ組が総合優勝を果たした。2.ポールシュートアウトではBMWチーム・シュニッツァーのA.ファーフス選手が2分00秒455を叩き出してポールポジション賞を獲った。3.アウディスポーツ・チームWRTのK.ファン・デア・リンデ選手が2分01秒494のタイムをマークし、スーパーファステスト賞を獲得した。

4. シルバーカップの優勝はサンエナジー1レーシング。**5.** プロ＆アマクラスの優勝はチーム・ストラッカ・レーシング。**6.** アマクラスの優勝はSATO-SSスポーツ。**7.** オーバーオール表彰台の皆さん。**8.** シルバーカップ表彰台の皆さん。**9.** プロ＆アマクラス表彰台の皆さん。**10.** アマクラス表彰台の皆さん。**11.** オーバーオール2位のメルセデスAMGチーム・グループMレーシング。**12.** オーバーオール3位のアブソルート・レーシング。**13.** シルバーカップ2位のキャラウェイ・コンペティション・ウィズ・ビンゴレーシング。**14.** シルバーカップ3位のウォール・レーシング。**15.** プロ＆アマクラス2位のガレージ59。**16.** プロ＆アマクラス3位のLMコルサ。

ルセロ／マキシミリアン・ブーク組）は9番手、KCMGの#35日産GT-R（松田次生／千代勝正／ジョシュア・バードン組）は13番手となった。

10時間の決勝レースは、気温30℃、路面温度38℃という朝10時3分にスタート。直後から#34 BMWが2番手に浮上し、トップの#42 BMWと共にレースを引っ張った。1時間ほどで各車が燃料補給とドライバー交代、タイヤ交換のためのピットイン。11時27分ごろ、スプーンカーブで2台の車両が接触し1台がスピンを喫したところへ、2番手の#34 BMWが当たりそのままピットインしてリタイア。FCY（フルコースイエロー）からセーフティカー（SC）導入となった。ここで#25アウディが2番手へ浮上した。

12時前後に2回目のルーティーンピットインが落ち着くと、トップに立っていたのは#25アウディ。スタートドライバーのファン・デル・リンデ選手がインラップ、そして交代したヴァンスール選手がアウトラップから数周で稼いだタイムで#42 BMWを逆転していた。この後、#25 アウディはピットイン時こそトップを譲るものの、それ以外はラップリーダーを

17. アジア賞1位は#35のKCMG。**18.** アジア賞2位のメルセデスAMGチーム・グッドスマイル。**19.** アジア賞3位のチームアップガレージ。**20.** スーパーGT賞1位はメルセデスAMGチーム・グッドスマイル。**21.** スーパーGT賞2位のチームアップガレージ。**22.** スーパーGT賞3位の#88のJLOC。**23.** スーパー耐久ST-Xクラス1位はSATO-SSスポーツ。**24.** スーパー耐久ST-Xクラス2位のMPレーシング。**25.** スーパー耐久ST-Xクラス3位のGTNETモータースポーツ。**26.** アジア賞表彰台の皆さん。**27.** スーパーGT賞表彰台の皆さん。**28.** スーパー耐久ST-Xクラス表彰台の皆さん。

アウディ R8 LMSカップ第7戦&第8戦／ ***29.*** 第7戦GT3クラス優勝のA.ハーヤント選手。***30.*** 第7戦GT3CTクラス優勝のV.フロイレンド選手。***31.*** 第7戦GT3クラス2位はA.アウ選手。***32.*** 第7戦GT3クラス3位はB.ブヒロンバハディ選手。***33.*** 第7戦GT3CTクラス2位はG.ナカス選手。***34.*** 第8戦GT3クラス2位はA.ハーヤント選手。***35.*** 第8戦GT3クラス3位はY.シャヒン選手。***36.*** 第8戦GT3CTクラス2位はG.ナカス選手。***37.*** 第8戦GT3クラス優勝のB.ブヒロンバハディ選手。***38.*** 第8戦GT3CTクラス優勝のV.フロイレンド選手。***39.*** 第7戦GT4クラス2位はW.デンジーア選手。***40.*** 第7戦GT3クラス表彰台の皆さん。***41.*** 第7戦GT3CTクラス表彰台の皆さん。***42.*** 第7戦GT4クラス表彰台の皆さん。***43.*** 第8戦GT3クラス表彰台の皆さん。***44.*** 第8戦GT3CTクラス表彰台の皆さん。***45.*** 第8戦GT4クラス表彰台の田ヶ原章蔵選手。***46.*** 第7戦GT4クラス優勝の田ヶ原章蔵選手。***47.*** 第8戦GT4クラス優勝の田ヶ原選手。

保っていった。中盤は#125アウディ R8と同じアブソリュート・レーシングの#912ポルシェ911（デニス・オルセン／マット・キャンベル／ディルク・ヴェルナー組）が2番手につけた。

スタートから6時間が経つ16時直前に130Rで1台がクラッシュし、この日2回目のFCYからSC導入に。18時前に日が暮れて来たころには#125アウディが2番手に浮上し、アウディの1-2態勢となった。しかし#125アウディは最後のピットインで30秒をロスして8番手へポジションダウンを喫することになった。

19時を回るとすっかり暗闇に。しかしグランドスタンドではファンがサイリウムのバーを振りナイトレースに彩りを添えた。そしてゴールまでの20分がこの日最高の盛り上がりを見せた。7番手を走行中だった#35日産GT-Rの松田選手が#107ベントレーに追いつきバトルを演じながらこれを1コーナーでかわしたのだ。しかしその背後には#125アウディのSUPER GTにも参戦経験のあるハーゼ選手が迫り、2台はテール・トゥ・ノーズのバトルを演じた。

ファイナルラップの20時4分、#25アウディが275周でトップチェッカー。2位は#999メルセデス、3位は#912ポルシェだった。そして6位争いの#35日産GT-Rと#125アウディのバトルはスプーンカーブで接触するほどの僅差。しかし130Rで#125アウディがコースをはみ出し、#35日産GT-Rが6位を死守してゴール。スタンドが大きく湧いた。

優勝した#25アウディのドライバー、ヴァンスール選手は21歳（兄のラウレンスはポルシェワークスドライバー）、ファン・デル・リンデ選手は23歳（フェルヴィッヒ選手は33歳）と若手が台頭する欧州勢は今年も大活躍を見せ、日本チームは#00メルセデスが一時は3位を走行したものの10位が最高位だった。

なおドライバー復帰で注目されたミカ・ハッキネン選手は、クラシックF1で活躍する久保田克昭選手、石浦宏明選手と共にプラネックス・スマカメレーシングの#11マクラーレン720Sで出場し、総合22位で完走を果たした。

ポルシェ・スプリントチャレンジ・ジャパン第9戦／ ***48.*** GT3-Ⅰクラス優勝はIKARI選手。***49.*** GT3-Ⅱクラス優勝は荻原秀樹選手。***50.*** GT4クラス優勝は石坂瑞基選手。***51.*** GT3-Ⅰクラス表彰台の皆さん。***52.*** GT3-Ⅱクラス表彰台の荻原選手。***53.*** GT4クラス表彰台の石坂選手。***54.*** GT3-Ⅰクラス2位の今田信宏選手。***55.*** GT3-Ⅰクラス3位の長嶋重登選手。